

## 男女共用トイレの配置計画に関する意識調査

## オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究 その6

正会員 ○高橋 未樹子\* 非会員 岩本 健良\*\*\*  
正会員 日野 晶子\*\* 非会員 大出 摩紀\*

オフィス トイレ トランスジェンダー  
LGBT 意識調査 男女共用トイレ

## 1. 本研究の目的

本研究は、性自認に関わらず誰もが利用しやすいオフィストイレの環境整備を目指している。既報より、オフィスにも男女別トイレに加えて「性別不問のトイレ」が求められること、その「性別不問のトイレ」として多機能トイレではない「男女共用の個室トイレ」（以下、男女共用トイレ）にも一定のニーズがあることが分かった。また、その男女共用トイレを利用するうえで、トランスジェンダー（以下、トランス）は周囲の目を気にすることが明らかになった。

そこで本報では、その5にて報告した、トランスが男女共用トイレを利用する条件のひとつである「出入りが他人から分かり難い」に着目し、より多くの人が利用しやすいオフィス内における男女共用トイレの配置計画について検討する。

## 2. 調査方法

調査はその5同様、シスジェンダー（以下、シス）824人（20～59歳の性年代で均等割り）、およびトランス299人（FTM：Female to Male 86人、FTX：Female to X-gender 73人、MTX：Male to X-gender 54人、MTF：Male to Female 86人）に対し、インターネット調査を行った。

男女共用トイレの適切な配置計画を探るため、出入りが①通路から、②男女別トイレの利用者から見えるか否かに焦点を当て、図1に示す5つの配置図を用意した。これらを調査対象者に提示し、「利用しやすさの評価」としてそれぞれを【+5：利用しやすい⇔-5：利用しにくそう】の11段階で評価してもらった。また、5つの中で「最も利用しやすい」な配置と「最も利用し難い」な配置、さらにその理由（自由記述）についても尋ねた。

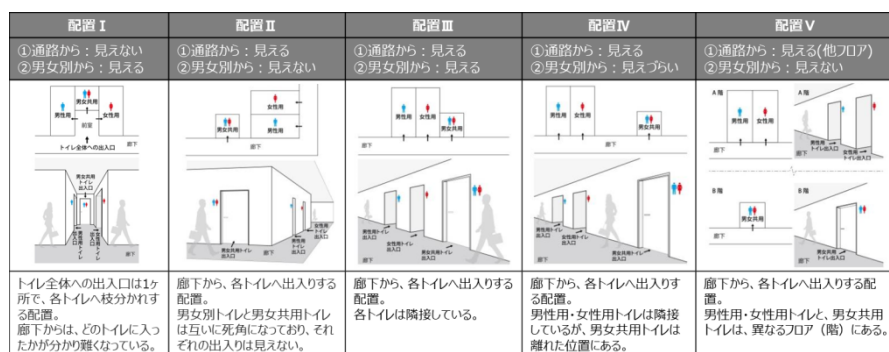


図1. 調査を行ったトイレの配置

## 3. 調査結果

## 3-1. 利用しやすさの評価

各配置に対する「利用しやすさ評価」の平均点順位を表1に示す。1、2位の順序に違いがあるものの、ジェンダーに関わらずほぼ同じ順位で、通路、男女別トイレから共に見える配置Ⅲ、Ⅳの評価が低かった。Ⅳにおいてはシス女性、トランスでマイナス点となり非常に評価が低い。通路にいる顔見知りの同僚から見え難い配置Ⅰ、Ⅴは、他の配置に比べて比較的评价は高かった。しかし、それでもその平均点は1点にも満たず（最高点5点）、評価が分かれている可能性がある。

表1. 利用しやすさ評価の平均点

| ジェンダー |     | 1位   | 2位   | 3位   | 4位   | 5位    |
|-------|-----|------|------|------|------|-------|
| シス男性  | 配置  | V    | I    | II   | III  | IV    |
|       | 平均点 | 0.76 | 0.75 | 0.56 | 0.34 | 0.25  |
| シス女性  | 配置  | I    | V    | II   | III  | IV    |
|       | 平均点 | 0.92 | 0.86 | 0.52 | 0.32 | -0.03 |
| トランス  | 配置  | V    | I    | II   | III  | IV    |
|       | 平均点 | 0.97 | 0.82 | 0.75 | 0.21 | -0.11 |

## 3-2. 最も利用しやすい／利用し難い配置

シス男女、トランスがそれぞれ、最も利用しやすい、し難そうと回答した結果を図2に示す。ジェンダーによる傾向の違いは見られず、「最も利用しやすい」との回答は配置Ⅰが4割前後で最も多く、次にⅤを選択した者が多かった。利用しやすさ評価で点数が低かったⅢ、Ⅳは、「最も利用しやすい」と回答した者も少なく、Ⅳを選択した者はシス、トランス共に5%前後と評価に明確な差が出た。

一方、「最も利用し難い」との回答においては、5つの配置に明確な差は見られなかった。Ⅲ、Ⅳは「最も利用しやすい」と回答した者より「最も利用し難い」と回答した者が多かった。したがって、男女共用トイレの配置として、出入りが通路からも、男女別トイレからも見えるものは適さないと考えられる。一方、「最も利用しやすい」との回答が多かったⅠ、Ⅴは、「最も利用し難い」との回答も多く、評価が分かれた。これが、平均点の低さに繋がっていると考えられる。そこで、最も利用しやすい／し難

そうと評価した理由から、その要因を探っていく。

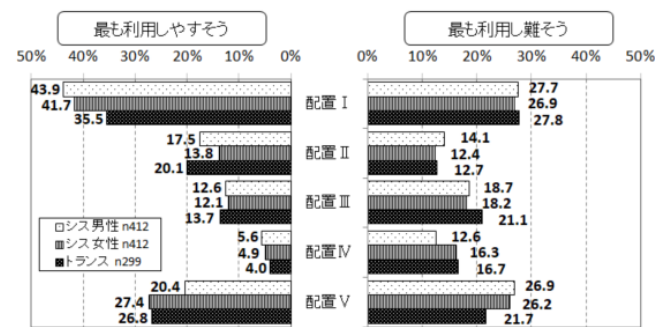


図 2. 最も利用しやすそう／最も利用し難そうな配置

3-3. 最も利用しやすそう／利用し難そうと評価した理由

5 つの配置に対して最も利用しやすそう／利用し難そうと評価した理由を、共起ネットワーク分析した結果を図 3 に示す。なお、分析にはテキストマイニングソフト KH Coder を用いた。

配置を評価するうえで、シス男女も「目立つ」など人目を気にしているが、特にシス男性においては「近い」といった利便性を重要視していることが窺える。トランスは特有語として「見える」「廊下」「共用トイレ」が出現し、廊下と共用トイレの位置関係により評価していることが窺える。

配置Ⅰ、Ⅴにおいて評価が分かれた要因を探るため、評価理由の代表的なものを表 2 に示す。トランスはシス以上に「他人の視線」を気にし、トイレに「入る時」「出る時」どちらを重視するかで評価が分かれた。さらにトランス特有の理由として、他人と鉢合わせした場合に「言い訳」ができるかでも評価が分かれた。男女共用トイレを利用する「言い訳」の要素として、その 5 で述べた「広めであること」「付属設備の充実」は有効と考える。

なお、フロアが分かれるⅤにおいては、オフィス環境（他のフロアは他社など）によっても評価が分かれた。

4. まとめ

誰もが利用しやすい男女共用トイレにするために、その配置は①出入りが他の人（廊下や男女別トイレ）から目立たないこと、②さりげなく利用できること、③利用する言い訳ができること、が求められる。これらを全て実現することは難しく、オフィス規模や環境に応じて必要なポイントを選択した配置とすることが重要である。

5. 最後に

6 題に渡り、性自認に関わらず誰もが安心して快適に利用できるオフィストイレのあり方を述べてきた。トイレ利用は人間の尊厳にも関わる人権のひとつであるにも関わらず、困難を抱えるトランスジェンダーがいるのも現実である。男女別、男女共用などトイレの選択肢を増やすといった設備の整

備にあわせて、研修などの教育により偏見をなくすことも重要である。一人でも多くの人がトイレで悩むことがない社会の実現のために、今後も継続して研究を行っていく。

なお、本報告は「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」（金沢大学、コマニー(株)、(株)LIXIL）で行った調査を取りまとめたものである。

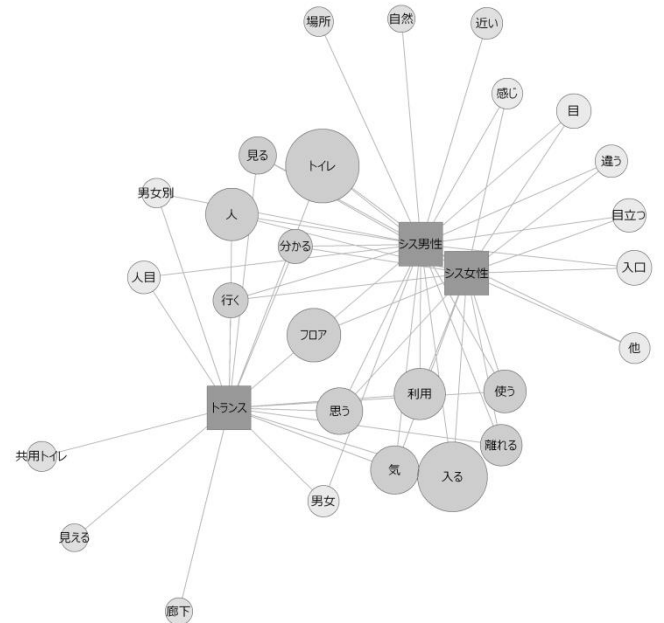


図 3. 評価理由の共起ネットワーク図

表 2. 配置Ⅰ・Ⅴの評価理由

| 配置  | 利用<br>しやすそう | シス   | ・男女別が混んでいるときに利用しやすそう。<br>・どこに入っても違和感がない。                                                                                            |
|-----|-------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |             | トランス | ・廊下からは <u>どのトイレに入ったか分からない</u> 。<br>・ <u>出るときに</u> 鉢合わせても「男女別が混んでいたから」と <u>言い訳</u> ができる。<br>・男女別が混んでいた場合にシスも利用する。<br>（＝特別なトイレではなくなる） |
| 配置Ⅴ | 利用<br>し難そう  | シス   | ・他人の視線が気にならない。<br>・該当フロアには男女共用しかないで、そこを利用することが自然。                                                                                   |
|     |             | トランス | ・同僚と鉢合わせすることが少なそう。<br>・「たまたま使ったところが男女共用だった」と <u>言い訳</u> しやすい。                                                                       |

参考文献

- 1) 高橋未樹子、日野晶子他、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究」（その 1～4）、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018～2019 年

\*コマニー株式会社  
\*\*株式会社 LIXIL  
\*\*\*金沢大学 人文学類 准教授 文修

\* COMANY INC.  
\*\* LIXIL Corporation  
\*\*\* Assoc.Prof, School of Humanities, Kanazawa University, M.A